```
74: if (list[i].className == 'g') {
75:     setLinkTarget(list[i]);
76:     html += list[i].innerHTML + '<br />';
77: }
```

以上でウィンドウの制御を自分で行なえるようになります。

google with wikipedia

機能概要 Googleの検索結果にWikipediaを加える

ライセンス Creative Commons BY

動作確認Ver. 1.02

配布サイトURL http://blog.c--v.net/item/2006/07/01/1

作　者 Ryosuke SEKIDO

解　説 このスクリプトをインストールしてからGoogleで検索をすると、検索結果にWikipediaへのリンクが追加されます(**図4-53**)。

図4-53

検索語に関する概要も一緒に表示されるので、用語を調べている時や何気ない検索の時にも新しい発見があります。関連語句へのリンクも備えているので、周辺事情を知るのにも優れています。

使い方 Googleで検索すると、検索した語句に関連するWikipedia内のページへのリンクが自動的に表示されます。

スペースで区切って複数の検索語を入力していた場合、スペースを「_」に置換して複合語としてWikipedia内を検索します。もしそのページが見付からなければ最初の単語のみに絞って検索を行ないます。それでも見付からなければ「Not found」が表示されます(**図4-54**)。

図4-54

検索語句内に「:」「"」が含まれている場合、Wikipediaへのリンクは表示されません。

One Point Wikipediaへのリンクが通常の検索結果と同じ見た目なので、全然目立ちません。パッと見てすぐWikipediaへのリンクだとわかるように、スタイルを変更してみましょう。WikipediaへのリンクはmakeWikipediaFrame関数内で要素を生成しているので、ここで一緒にスタイルを指定する事が可能です。

131行目に次のコードを挿入すると**図4-55**のように背景色が付きます。

```
130: function makeWikipediaFrame() {
131:   var wrapper = document.createElement('p');
  :   with(wrapper.style) {
  :     padding = '5px';
  :     backgroundColor = '#E5F9EC';
  :   }
132:   wrapper.setAttribute('id', 'wp_result');
```

図4-55

この位置に表示されるテキスト広告に似てきましたが、以前よりは見やすくなったのではないでしょうか。

showthumbnail

機能概要 Googleの検索結果にサムネイル画像を表示する(→1)

ライセンス Creative Commons BY

動作確認Ver. 1.01

配布サイトURL http://blog.c--v.net/item/2006/06/27/1

作　者 Ryosuke SEKIDO

解　説 このスクリプトをインストールしてからGoogleで検索し、検索結果のリンクにマウスカーソルを合わせると、リンク先ページのサムネイル画像が表示されます(**図4-56**)。

図4-56

リンク先を見に行かなくてもリンク先ページの概観がわかるようになります。

使い方 サムネイルの画像は、SimpleAPIのサムネイル作成API(http://img.simpleapi.net/)を利用して生成しています。全てのサイトの画像が存在するわけではないので、サムネイルが存在しないサイトの場合は「NOW PRINTING」と表示され、実際に画像ができ上がるまでしばらく時間がかかります。また、外部サービスを使う時の常ですが、SimpleAPIのサービスが停止したらサムネイルも使えなくなるので注意が必要です。

One Point ここ最近、何故かサムネイル生成サービスが盛り上がっているようで、他にもいくつかのサービスがあります。「使い方」でも触れたように、サービスが終わってしてしまうとこのスクリプトも使えなくなってしまうので、そんな場合に備えて別のサービスで動作させてみましょう。

今回はHeartRails(http://www.heartrails.com/)が提供するHeartRailsCapture(http://capture.heartrails.com/)を使うように変更します。といっても、実際はサムネイル画像のURLをちょっと変更するだけなのでとても簡単です。65行目に画像のURLを指定しているところがあるので、次のように変更します。

Before

```
64: if(!href) href = e.target.parentNode.href;
65: img.src = "http://img.simpleapi.net/small/" + href;
66: img.parentNode.style.MozOpacity = 0.85;
```

After

```
64: if(!href) href = e.target.parentNode.href;
65: img.src = "http://capture.heartrails.com/medium?" + href;
66: img.parentNode.style.MozOpacity = 0.85;
```

これだけで、HeartRailsのサービスを使うように変更できました。簡単でしたね。

HeartRailsCaptureは何段階か画像のサイズが用意されており、好きなサイズで表示させる事ができるようになっています。具体的にはURL内に含まれている「medium」を画像のサイズに合わせて変更します。指定できるのは、小さいサイズから順に「tiny・small・medium・large・huge」です。たとえば「large」を指定した場合、**図4-57**のように表示されます。

→1 本スクリプトは"櫛ヶ浜やぎ"さんのshowthumbnailonhoge2.user.jsを元にされています(http://d.hatena.ne.jp/kusigahama/20060324#1143210918)。

図4-57

スクリプト内で画像のサイズが固定されているので、ここも変更しておく必要があります。31、32行目のwidthとheightの指定をコメントアウトしておくと良いでしょう。

Favicon with Google

機能概要 Googleの検索結果にfaviconを付ける

ライセンス 不明

配布サイトURL http://june29.jp/2006/10/18/favicon-greasemonkey/

解　説 このスクリプトをインストールしてからGoogleで検索をすると、検索結果の一覧にfaviconが付くようになります。